

哺乳類ノート (2)

—側溝をけもの道として利用するタヌキについて—

山 口 佳 秀

Notes on Mammals (2)

—On the Moving Track of Raccoon Dog—

Yoshihide YAMAGUCHI

1986年6月16日、午後6時20分頃、秦野市千村の市道827号線で道路を横切って側溝に逃げ込むホンダタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* を目撃する機会があった。

筆者はそれ以来、この地域での野生哺乳類の確認を主たる目的として、目撃あるいは足跡、食跡、糞などフィールドサインによるもの、また資料の補強のために住民からの聞き込みも併せて行なっている。最近になって、ここに生息するホンダタヌキが側溝を重要なけもの道として利用していることを認めたので報告する。

調査地の概況

調査地の千村地域は、秦野市の南西部に位置し、小田急小田原線渋沢駅から渋沢丘陵に至るまでの秦野盆地のなかでもやや小高い場所にある。渋沢駅を中心とした地域は市街地で、とくに近年は周辺の丘陵部を造成して宅地がさかんに造られ人口増加は著しい。一方、最南部は標高2~300mの渋沢丘陵で、いまだ自然環境を多く残している。この都市環境と自然環境の接点にあたる地域が調査地で、渋沢丘陵の根元を流れる室川の水源地付近にあたり、田園風景が多く残された地域である(図1)。

市道827号線以南の、とくに室川に沿った低地は水田が発達し、夏にはヘイケボタル、ゲンジボタルが飛び交い、アカガエル、イモリ、タニシ、ドジョウなど豊富に生息している。また、近くにはミカン、カキなども植えられ、トウモロコシなど季節の野菜が広く栽培されており、タヌキなどにとって絶好の餌場と考えられる。

この地域では、各道路の両側に側溝が設置され、所々に側溝と側溝を結ぶU字溝が道路を横切っている。多くの側溝には鉄製の格子状の蓋かコンクリート製の60×30cmの蓋が連続して施してある。これらの側溝の多くは室川に直結している。

ホンダタヌキの観察及び推察

1986年6月16日以降、ホンダタヌキの目撃は次の通りである。

1986年6月16日	18:20	A地点	側溝穴に入る
1986年8月17日	16:00	D地点	側溝穴に入る
1986年10月6日	5:05	A地点	側溝穴から出る
1986年10月7日	5:15	A地点	側溝穴から出る
1986年10月28日	17:30	B地点	側溝穴から出る
1986年11月6日	5:45	A地点	側溝穴から出る
1986年11月7日	5:50	A地点	側溝穴から出る
1986年11月10日	6:00	A地点	側溝穴から出る
1986年11月10日	6:30	C地点	側溝穴から出る
1986年11月14日	6:05	A地点	側溝穴から出る

A地点(図1-A)は1986年6月16日市道を横切って側溝に逃げこむタヌキを初めて目撃した場所である。

その後、10月6日、7日、11月6日、7日、10日、14日の早朝(ちょうど日の出の時間と相前後している。日の出時間は10月5日5時25分、11月7日6時08分)、この側溝穴から出て道路を横断し、西側斜面に広がるクリ、クヌギなどの雑木林、ヒノキの植林地の中へ向うタヌキを目撃した。また、タヌキを目撃することの出来なかった日以外でも、道路上につけられた足跡は10月の始めからほぼ毎日のように確認している。(側溝内には僅かであるが水が流れているため、側溝内か



図1 調査地

ら道路に出る場合は足跡が路面に僅かの時間であるが残る)

図2(1-1)は11月8日、A地点において午前6時10分頃撮影したものであるが、すでに2頭(矢印)は道路を横切って西側斜面の雑木林内に向っている。

図2(1-2)は11月10日、午前5時40分頃撮影したもので、側溝穴の付近に点々とつく足跡は一度側溝から出たものの筆者の気配でUターンして再び側溝の中に逃げこんだためである。

B地点(図1-B)10月28日午後5時30分頃、A地点から150mほど離れたコンクリート製の蓋が30cmほどずれたため生じた側溝穴から出て、5mほどの崖を登りミカン畑へ向うタヌキを目撃した。この側溝穴のある位置は、左側の側溝と右側の側溝を結ぶために道路を横断して造られたU字溝と交差している。9月9日、U字溝の中にトウモロコシ2本、クリの実1個の食跡があるのを目撃した。鉄製の格子状の蓋が施されてあるが道路の中央部分であった。

以上の観察とホンダタヌキが夜行性という習性を考慮して推察すると、日中西側雑木林内にいたタヌキは

日没とともに道路を横切り、A地点の側溝穴へ侵入、B地点まで約150mの側溝内を移動する。この地点で再びU字溝を利用して道路を横切り、反対側の側溝を300mほど利用して餌場である室川に到着する。また、B地点の側溝穴から出たタヌキは5mほどの崖を登り、住宅地と造成地の間に残されたミカン畑に向うと思われる。崖につけられたけもの道(図2-2矢印)が明瞭についているところからこの側溝穴の使用頻度は相当に高いと思われる。

夜間、餌場にて行動していたタヌキは日の出る10~20分前になると再び側溝を利用してA地点まで戻り、道路を横断して雑木林内に帰ってゆくと思われるが、日中の雑木林内での行動、夜間の行動等については今後の調査に待ちたい。なお、この側溝を利用しているタヌキは足跡などから推定して3個体と思われる。

C地点(図1-C)は11月12日午前6時30分頃、側溝から飛び出して道路を横切るタヌキを目撃した。この場所はA地点から700mほど離れており、12日午前6時頃にA地点で目撃したタヌキとは別個体と思われる。

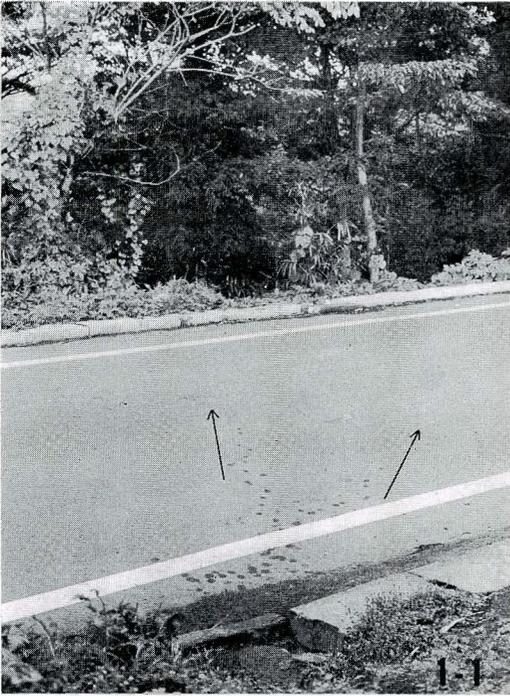


図2 道路に残されたタヌキの足跡及び側溝穴

D地点(図1-D)は8月17日、渋沢小学校近くの住宅地内で午後4時ごろ、側溝の穴から出たものの筆者の気配であわててUターンして側溝に逃げ込むタヌキを目撃した。この付近は大規模な宅地開発によってできた住宅地の端にあたる。この団地一帯は下水本管を埋設した本格的な下水工事が施行されているため、側溝と下水管は継っていることから推測すると、下水本管もけもの道として利用しているように考えられる。

以上のように新興住宅地付近に設置された側溝やU字溝、あるいは下水本管はタヌキがけもの道として積極的に利用していることをうかがうことができる。これと似た事例は平田(1985)が、埼玉県鶴ヶ島町の新興住宅地で一時的であるが、親と2頭の仔が庭先に作られた畑に現われたり、日中下水本管からU字溝に移動中のものや、道路横断中のものが多くの人に目撃されたり、仔の鳴き声によってしか推測できなかったが親はかなり下水本管の配置を知っているらしく、縦横に利用している印象を受けたと報告している。

このように縦横に、やや大袈裟に表現すれば五盤の目状に配置されている側溝やU字溝、あるいは下水本管をタヌキ自身の生活を支えるハビタットとして取り入れることにより、野犬などの天敵から身を守り、日中の行動も可能にしているように思われる。

安全なけもの道の出現は、最近いわれているタヌキの増加現象の一つの要因とも考えられる。このことは都市環境と自然環境の接点地域、いわゆる新興住宅地に生息する野生哺乳類の新しい特徴ではなからうか。

まとめ

ここでは、ホンダタヌキが側溝を重要なけもの道として利用していることの報告だけにとどめ、今後、こ

の地に生息するホンダタヌキの行動圏利用、餌の季節変化など今後の調査に待ちたい。

なお、6月以後4カ月間に確認することのできた野生哺乳類は次の10種であった。トラップ等による地上棲小型哺乳類の採集は実施していない。

ホンダタヌキ *Nyctereutes procyonides viverrinus*

目撃, 図1-A-D

ホンドイタチ *Mustela sibirica itatsi* 目撃, 図1-1

ホンドキツネ *Vulpes vulpes japonica* 糞, 鳴き声,

図1-2

キュウシュウノウサギ *Lepus brachyurus brachyurus*

捕獲, 図1-3

カヤネズミ *Micromys minutus* 球巣, 図1-4

ヒメネズミ *Apodemus argenteus* 拾得, 図1-5

ムササビ *Petaurista leucogenys* 食跡, 鳴き声, 図

1-6

コモグラ *Mogura wogera imaizumi* 拾得, 図1-7

アズマモグラ *Mogera wogura wogura* 拾得, 図1

1-8

ホンシュウヒミズ *Urotrichus talpoides hondnis* 拾

得, 図1-9

なお、8月の初め頃、ゲンジボタルを観察中にコウモリの一種の飛翔を目撃している。

参考文献

池田 啓ほか 1979 高島におけるホンダタヌキの行動圏利用について, 日生態会誌, 29; 35-48.

小原秀雄ほか 1986 都市生態系における人間と動物の動態, 生物科学, 38; 46-58.

平田 久 1985 鶴ヶ島町の哺乳動物, 鶴ヶ島研究, 2; 15-19.

(神奈川県立博物館)